



国際展「PHILA NIPPON '11 横浜」初出展 感謝&感謝

江 村 清

日本で10年ごとに開催されている「PHILA NIPPON 2011」が、在住の「横浜」で開催されると決まった時から、収集人生の記念に初めて国際展にチャレンジしてみようかと心に決めました。

テーマはJAPEX'98で小倉譲賞を得た後も、コツコツと収集を進めていた「画家たちの肖像史」として、まずは国際展への出展資格を得るため、2009年度国内展の全日本切手展（3フレーム）とJAPEX（8フレーム）に挑戦をすることとしました。何れの作品も出展資格として最低レベルの「金銀賞」を何とか受賞することができました。

国際展では国内展受賞レベルよりも通常1～2ランク下がると聞いていたので、国内展作品を大胆に見直しすることとしました。JAPEX'09作品の主な見直し点は次の通りです。

- ・リーフサイズをF.I.A.Pソウル国際展で見えてきた一段3ページの大型サイズ（幅280mm）に変更（メリット：大型マテリアルの使用が容易で展開の流れが途切れない）
- ・肖像史というタイトルに展開がマッチするように、各世紀（時代）の歴史的背景を追加（メリット：肖像だけではなく多様かつ希少なマテリアルの使用が可能）
- ・作品全ページのトップの位置に簡潔なページ見出しを掲載（メリット：肖像史の変遷を感じさせ、かつページ全体の印象を表すことの効果）
- ・8フレームを5フレームに圧縮するため、自画像と関わりの深い画家に絞り込み

これらをベースとして、2011年1月に開催された「テーマティクの会」ミニペックスに試作の主要なページ3フレームを出展し、国際展テーマティク部門で何度も上位の賞を受賞されている大沼幸雄氏、内藤陽介氏、勝井明憲氏をはじめとして多くの皆さまにアドバイスを受けました。

その後、当部会所属の中野氏、安西氏、澤口氏に試作品5フレームのコピーを不躰にもご覧いただいて、自分一人では思い込みが強く気が付かない点などをアドバイスしていただきました。

ご指摘いただいた点は、例えば、マテリアルが相応しくない、英文が長過ぎて読み難い、歴史的背景の誤り、レイアウト面ではバランスの良否とテキスト行間の広過ぎなどなど、貴重なご意見を数多くいただき、今回の横浜展のベースはこの時点で出来たものと感謝しております。

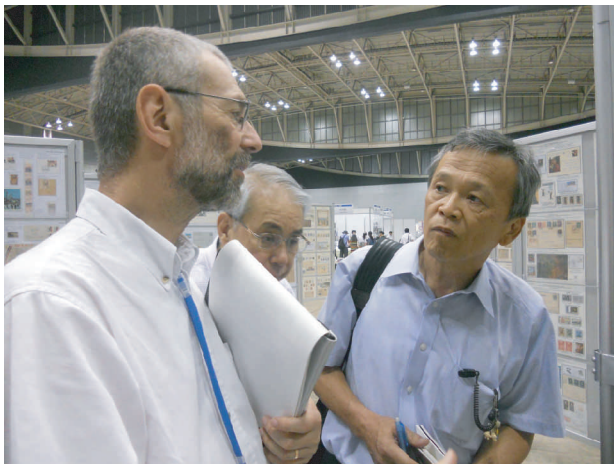
「PHILA NIPPON 2011」には当然、出展はできるものと期待して、昨年秋頃からプランの練り直しや翻訳など準備を進め、年賀状には今年の夢として高らかに掲げました。しかし、横浜展への初出展は予想以上にハードルが高く、3月にはコミッショナーから申し込みが多いため出展受諾できないとのメールがあり、その時のショックは言い表せないほど強烈なものでした。

折角、皆さまからご指導とご支援をいただき、漸くここまで準備をして来た作品を、陽の目を見ないまま簡単には終わらせたくないというのが正直な気持ちでした。そのような折、内藤氏がコミッショナーをされているF.I.A.P中国無錫展（2011年11月開催）に応募してみないかというお話をいただき、藁にもすがる気持ちで応募をさせていただきました。

そんな矢先に、3月11日発生の東日本大震災、原発事故の影響で諸外国からキャンセルが続出しているので、出展できないかとの話が舞い込み、願ったり叶ったりで出展申し込みをして、念願の横浜展への初出展となりました。



出展作品の前にて



主任審査員のヒメネス氏からアドバイス

そのような状況から、作品は比較的早めに形としては出来上がっていましたが、その後新規にマテリアルを入手し、文献による新たな気付きがあり、頻繁に手直しを重ねていました。

しかし、体調の方は3月頃から血糖値が上昇し始め、6月の定期検査で入院加療が必要なほど高いとのことで、横浜展よりも一足早く、会場の目の前の病院に3週間ほど入院して、食事+運動+加療+検査の毎日となりました。特に運動療法では赤レンガ倉庫まで毎日の朝昼2往復が日課で、会場のパシフィコ横浜周囲を散策していました。運動をしていない時は、病室に洋書の「展示ハンドブック」とパソコンを持ち込み、翻訳ソフトにより意識をするなどしていました。ハンドブックには、展示ページのレイアウトや書込みなどテーマティクだけでは限定されない事項も、数多く記述されていたので、何れパソコン郵趣部会報の誌面をお借りして、ご紹介できればと思います。

また、会期直前の7月10日には「テーマティクの会」の大沼氏の企画で、銀座ルノアール談話室でF.I.Pベルギー審査員のブラック氏（観光目的で来日）による「テーマティク作品の改善方法について」3時間ほどのセミナーが開催され、ヒントになることの数多くを得ることができました。このセミナーには大沼氏の奥様も同席されて同時通訳をしていただいたお陰で、語学音痴の私にも理解することができ、大沼夫妻には心より感謝をしております。（奥さまには会期中にも審査員批評でも通訳をしていただき、本当に

助かりました。ありがとうございました。）

セミナー後に今回作品の改善として、メーター・スタンプのカラー・バラエティ（赤・青）、モダンな郵便局発行のスタンプ・パッケージの使用などを行うこととして、最後の最後となる作品搬入の前日まで手直しをしていました。

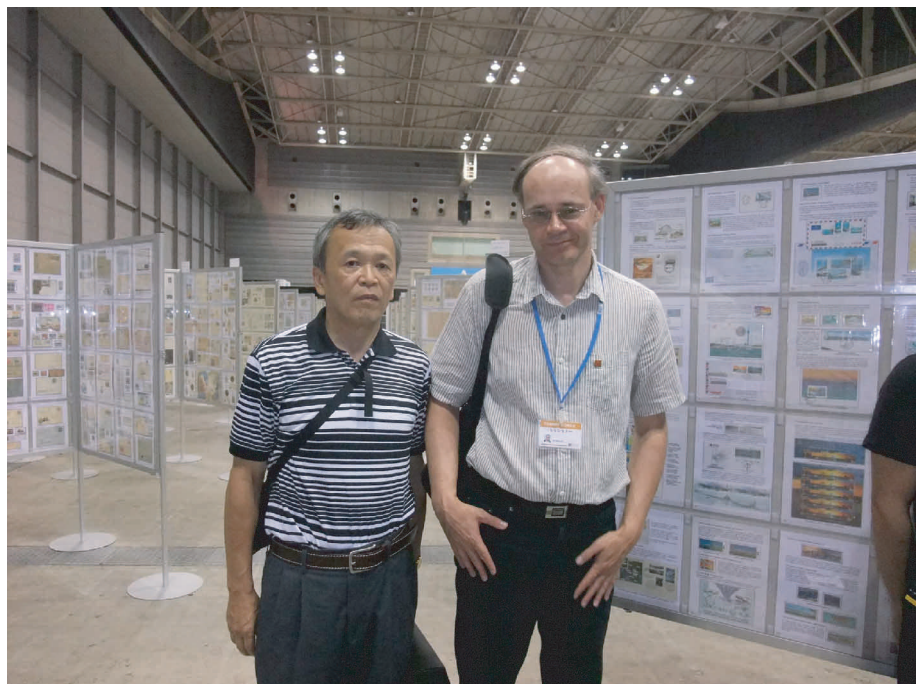
いよいよ会期が間近となり、ボランティアが不足しているとのSOSが入ったことから、家から近いこともあり展示会場には26日からのボランティアを含めて8日間、通い詰めました。

そして、作品の審査結果は82点の「金銀賞」を得ることができました。結果的にはJAPEXと同位の賞でしたが、独創性は満点で合計点は7点もプラスだったのには驚きました。多くの皆さまのご指導とご支援を頂きながら、日々、努力してきた甲斐があったと素直にとっても嬉しく貴重な体験となりました。

通常ですと、これで無事に終わったということになりますが、当初、横浜展に却下されたお陰？もあり、11月開催予定の中国無錫展にエントリーしています。これも出展機会を得たことを幸運と考えて、今回の審査結果などを踏まえ、いろいろと多くの得たことを反映しながら作品改善をして2度目の国際展出展に備え、今から心がときめいています。

最後になりますが、部会報の誌面をお借りしまして、部会関係者の皆さまに深く感謝を申し上げます。

以上



作品指導を受けたMajander氏と

3.4.1 Historical background

After the Great London Exhibition which introduced information on industrial development and the culture of other countries, Paris and Vienna also held international exhibitions. These exhibitions had a great influence on painters. Napoleon III was defeated in the Franco-Prussian War and large-scale restructuring of Paris which was destroyed by the Commune was commenced. Paris, which was re-born as a modern city, became the capital of the arts.

Invention of the camera and the photographer appeared



Inventors of Photography:
Niepce and Daguerre



Nadar who photographs it
These are the images of the painters
themselves from paintings or
photographs created as designs for
stamps.

French-German war of



Mail was carried by hot air
balloon in Paris when it was
surrounded by the Prussian
army until the siege ended.



Ballon mail to Tourville 12.1870 No50/67 flight
Painters of the impressionist school, such as
Monet, evacuated.

Industrial Revolution & World Exposition



Stephenson's Rocket (1829)



World's first international
exposition holding
(1851 London)



The Paris's first international exposition holding (1855)

The Impressionists which gather to a cafe



Café Guerbois by Manet (1869)

The retrospective exhibition of an Ingres and
Delacroix was held in the parlor in the hall.
Courbet opened the private exhibition in front
of the expo venue.

Modernization of Paris



Tour Eiffel -the symbol of a modernized Paris of international exposition (1889)

Back reduced
scale copy

The painters of
the impressionist
school made on
the outskirts of
the inside of
Paris. On the
other hand, the
Post-impressionist
painters
separated from
Paris and made.

40. 19世紀中頃の歴史的背景ページ（風景や静物を見る眼で自画像を描く）

Industrial Revolution & World Exposition



The Paris's first international exposition holding (1855)



Back cancelled
trace copy two
EXPOSITION
UNIVERSELLE
POSTES.



パリ万博1855年7月のカバー

3.4.2 Impressionism

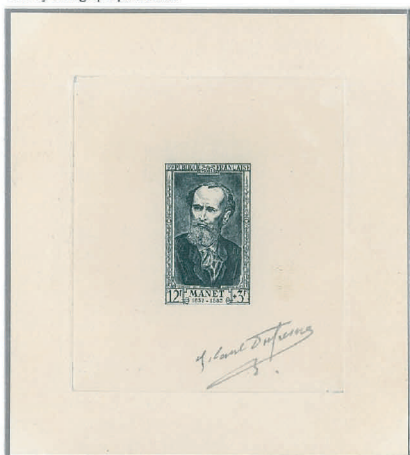
Photos and colleagues communicate the legacy

By the second half of the 19th century, the existence of painters itself was ambiguous in civil society. Photographs began to become more common and works were themed on the changing outdoor light and the customs and scenery of the newly modernized Paris rather than on self-portraits.

3.4.2 Impressionism [vivid colours of impressions that change from moment to moment]

Manet, Edouard (1832 Paris - 1883 Paris)

His self portraits are all a vivid reminder of his honour as a gentleman painter. However, his individuality as an artist is not asserted and it is nothing more than someone already in civil society taking up a paintbrush.



Portrait of Manet by Nadar c.1864(32y/o)
(photograph) artist dei proof



Portrait of Manet 1867(35y/o) (photograph)

Morisot, Berthe Marie Paulino

(1841 Bourges - 1895 Paris)

Her open jet-black pupils bathed in the glorifying gaze in the midst of a male cultural sphere give her a beautiful armored expression that female painters were obliged to cloak themselves in.



Berthe Morisot with a Bouquet of Violets by Manet 1872(31y/o)

Caillebotte, Gustav (1848 Paris - 1894 Paris)

Born to the aristocracy and brought up wanting for nothing, he aided Impressionist painters financially.



Self-portrait 1889(41 y/o)
Print meter stamps in blue rather than the traditional red.



Moulin de la Galette by Renoir 1876(28y/o)
Caillebotte which sits on a chair

Sisley, Alfred (1839 Paris - 1899 Moret-sur-Loing)

He was a self-acknowledged landscape painter and he did not even paint one portrait, let alone a self-portrait. His image was painted as dandy by his painter friends such as Renoir.

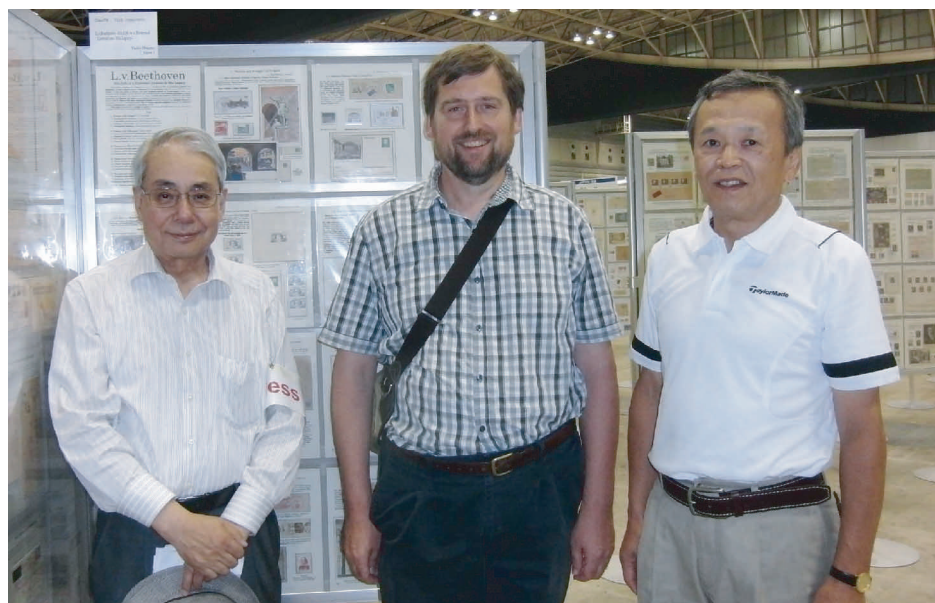


Portrait of Sisley by Renoir 1876(37y/o)

41. 印象主義の画家ページ

(写真と仲間が面影を伝える)

セミナー受講後にリーフ改善



セミナー講師のブラック氏を囲んで